

平成24年度西部地区学力向上のための授業研究会実施要項

1 趣 旨

小・中学校における学力向上の諸課題（小学校国語、中学校数学）について研究協議し、もって教員の指導力の向上に資する。

2 主 催 西部教育事務所

3 実施・運営

協議会を運営する委員等は、次のとおりとする。

(1) 運営委員

西部教育事務所主席指導主事を運営委員長とし、各市町教育委員会指導主事、西部教育事務所指導主事を委員として、西部教育事務所長が依頼する。

(2) 授業者

西部教育事務所管内の小中学校の教員

(3) 指導助言社・司会

市町村教育委員会指導主事の中から選出し、運営委員長が依頼する。

(4) 参加者

各市町村教育委員会から推薦を受けた教諭

※小学校は国語教育を、中学校は数学教育を、校内で推進していくことが期待される教諭

※各市町村から概ね3分の1学校数

4 開催日等

(1) 期日、会場

	日 程	会 場
小学校部会	平成24年6月13日（水） 13：25～16：30	飯能市立飯能第一小学校
中学校部会	平成24年6月26日（火） 13：25～16：30	越生町立越生中学校

5 研究協議の方法

(1) 研究課題

○ 研究課題

本時のねらいを達成するための豊かな言語活動のあり方

○ 研究の視点

児童（生徒）自身の言葉で、本時のまとめをするための方策

(2) 課題設定の理由

学力向上に向けた取組として大切なのは、1時間の授業において教師が本時のねらいを的確に捉えることである。教材を深く研究し、子どもたちに1時間の授業の中で何を身に付けさせ、何を理解させるべきかを明確にすることで、その授業の終末にあるべき子どもたちの姿が明確になってくる。

授業のねらいを達成するために、教師は子どもたちの状況を把握（形成的評価）しながら、必要な指導や支援を行い、豊かな言語活動をとおして思考力、判断力、表現力を育成していくことが重要である。また、授業の終末の段階では、終末のねらいが子どもたちに届いたかどうかを確認することが重要である。そのために、「今日の授業で〇〇が分かった」「〇〇を使って解決できた」等、子どもたちの言葉で学習内容をまとめさせることで、授業の目標の達成状況を図ることができる。同時に、教師は自らの指導方法を振り返り、指導方法の工夫・改善を図ることができる。

以上の理由により、本時のねらいを達成するための言語活動のあり方、特に授業の終末に児童(生徒)自らが本時の学習内容をまとめ、学習内容を確実に理解・定着させるための方策を探ることが学力の向上につながると考え、本研究課題を設定する。

(3) 参加者は、下記の題材に沿った共通題材の実践例をA4用紙1枚程度（別紙参照）にまとめ、当日必要数持参する。（※必要数、番号については後日連絡します。）

(4) 共通題材（教材）

○ 小学校・国語

小学校国語は「自分の考えや思いを適切に表現し伝え合う力を育成」することを主なねらいとして授業研究を行う予定です。

低学年部会	「2年 お話を読んで、かんそうを書こう — スイミー」
中学年部会	「3年 ほうこくする文章を書こう — 気になる記号」
高学年部会	「5年 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう — 百年後のふるさとを守る」

※授業研究の教材は「光村図書」の教科書所収のものです。

○ 中学校・数学

1年生部会	「1年 文字の式（文字式の加法・減法）」
2年生部会	「2年 連立方程式（連立方程式の利用）」
3年生部会	「3年 平方根（分母の有理化）」